

週報

2026年度 教会標語

「神様に“望み”を持って、生きる！」

<先週の説教から>

『ルカ75 — 自ら信仰を告白する者へと』

武田真治 牧師

ダニエル 9:24~27 ルカ福音書 9:18~20

日本では、キリスト教会というと、様々な社会奉仕や福祉活動を行って来た団体だと思われるようです。それは、外国より多くの宣教師や教会が来日して病院や養護施設、幼稚園や学校等を設立してくれたこと、女性や子供達の地位向上に貢献してくれたこと等が大きく影響しています。そのような働きはキリスト教会が始まった時からそうであったことをこのルカ福音書9章はよく示してくれています。即ちイエス様は弟子たちを、あらゆる地域に「神の国を宣べ伝え、病人をいやすために」遣わされたと。

ただ、そこで見落としてはいけない点が、今日の箇所にもよく表されています。最初の18節「イエスがひとりて祈っておられたとき、弟子たちは共にいた。」です。ここで、イエス様お一人が祈り、集まっていた弟子たちは何もしていない状態です。イエス様が祈っておられるのに、どうして周りにいる弟子たちは一緒に祈らないのでしょうか？皆様も、この点を不思議に思われませんか？

実は、弟子たちはまだ”祈りと祈り方”を知らなかったのです。なぜ、そう言い得るのかと言えば、この後の11章1節に「イエスはある所で祈っておられた。祈りが終わると、弟子の一人がイエスに『主よ、ヨハネが弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈りを教えてください』と言った」とあるからです。そして、そこでイエス様が彼らに教えられたのが『主の祈り』なのでした。それ故、今日の段階では弟子たちはまだ”祈れなかった”のです。

どうでしょうか？ 私が何より教えられるのは、イエス様が《祈りとその祈り方》を、弟子たちが教えて欲しいと行って来るまで”教えられなかった=待っておられた”という点です。いくらでも教えようと思われれば、いつでも教えられたはず。信仰者としての《心得や作法》の一

つとして”祈り”を教えられても良かったはずなのに。逆に、イエス様は3:21や5:16や6:12などで、お一人で祈られる姿を彼らに見せて来られました。それはみ言葉の説教や病気の癒やし、様々な奇跡を起こされる一方で、必ず”静まって祈る時”が必要であることを自らの行動で示されて来られたと言い得ます。まさに弟子たち自身が、イエス様の行動や力を発揮される力や秘密は《祈ること》にあると気付くようになるまで”持っておられた”のです。そうされた理由は、祈ることは強制されて為す訓練や修行やお勤めでなく、自分に必要だと感じてこそ「祈る」のであり、それでこそ真の力になることを教えられたのです。この後イエス様が『あなたがたはわたしを何者だと言うのか。』と問われた時にペトロが『神からのメシアです。』と正しく答えたのも以上のような過程があったからでした。

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 5月13日(水) 20:00
II. 5月14日(木) 10:30

聖書研究: ヨブ記
祈祷主題: 埼玉地区を覚えて
担当者: (水) AS (木) TN
祈りに覚える人 SCさん SAさん

【教勢報告】

主日礼拝 男17 女51 計68
祈祷会 I. 男2 女1 計3 II. 男1 女7 計8
日曜学校 幼稚科3 小中科6 計9

【次週礼拝】

5月17日(日)
聖書: エゼキエル書 2:1~8
ルカによる福音書 9:21~24
説教: 「ルカ76—自分の十字架を背負って生きる」
武田真治 牧師

【次週当番表】

讚美歌: 472(1)、32、287(1~3)、287(4~6)、481、91(1)
司式: SM長老 奏楽: MA 礼拝: KY長老
献金: KK KT 受付: KN YS
会堂準備: KK KT TR NE

HH HH
看板: SC 週報: YS お花: HM

【次週集会予定】

礼拝前: ・日曜学校礼拝 ・聖書輪読会 ・はこぶねルーム
礼拝後: ・お茶の会 ・牧師と語る会 ・幼稚園理事会
・日曜学校教師会 ・オリブの葉編集委員会

2026年 5月 10日

日本キリスト教団 上尾合同教会
牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33
TEL&FAX 048-771-6549